



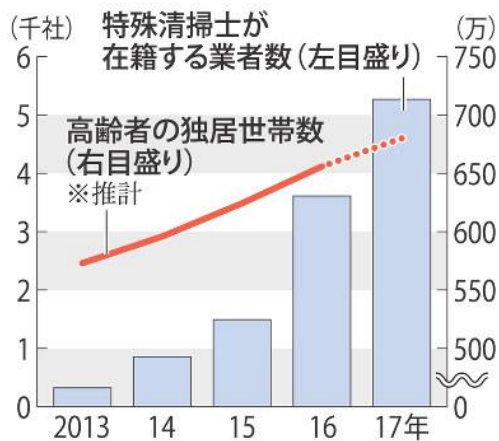
大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4379 号 2018.5.15 発行

特殊清掃業 5年間で1.5倍増 家族関係の希薄化背景に 毎日新聞 2018年5月13日

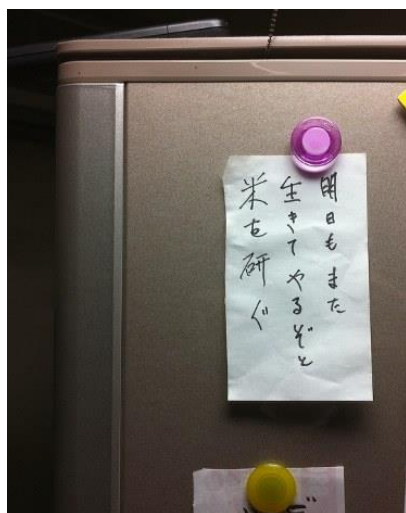
民間資格の特殊清掃士が在籍する業者数と高齢者の独居世帯数の推移



※事件現場特殊清掃センターと厚生労働省の資料を基に作成

だが、悪質な業者による高額料金の請求や雑な作業を巡るトラブルも少なくない。こうした業界の健全化を目指し、2013年に一般社団法人「事件現場特殊清掃センター」（本部・北海道）が設立された。

センターは民間資格「特殊清掃士」の認定制度を創設。遺族対応や質の高い清掃方法などをテーマにした約2カ月間の通信講座を受け、試験に合格すると特殊清掃士に認定される。13年は資格取得者が在籍する業者は326社だったが、昨年末現在で5269社まで急増している。



厚生労働省の国民生活基礎調査などによると、16年の1人暮らしの高齢者数は約655万人（推計）で、10年前の約1.6倍に上る。核家族化も影響して孤独死は全国で相次いでおり、特殊清掃業の需要が高まっている。センターの小根英人事務局長（41）は「需要は今後も増える。遺族らに寄り添える業者を育てたい」と話す。【千脇康平】

孤独死の男性宅に張り紙 「明日もまた 生きてやるぞと 米を研ぐ」

「メモリーズ」が特殊清掃を請け負った大阪市内の一軒家には、孤独死した住人男性が記したとみられる張り紙が冷蔵庫の扉に残

されていた（同社提供）

近畿地方を中心に特殊清掃を請け負う「メモリーズ」（堺市）の横尾将臣代表（49）には忘れられない現場がある。

大阪市内の一軒家で8年前、住人の60代男性が風呂場で孤独死した。疎遠だった親族からの依頼だった。

台所や居間には食べかけのコンビニ弁当が散らかっていた。近所付き合いも避けていたという男性。冷蔵庫の扉には、自分に言い聞かせるように黒色のペンで書かれた張り紙があった。「明日もまた 生きてやるぞと 米を研ぐ」

横尾さんは「生きようとしていた形跡を目にすると、こんな最期しかなかったのかと切なくなる」と嘆く。

同社には毎月150件近い依頼があり、その数は約10年前の15倍に上る。

「クリーンメイト」（大阪市生野区）の西村訓典社長（35）も半年前、高齢女性が孤独死した大阪府内の自宅を特殊清掃した。依頼主は関東地方の息子だった。ギャンブル好きの父親と仲たがいし、20年前に家を飛び出して家族と疎遠だった。

電話台の棚から、先に亡くなった父親の言葉を妻の女性が書き留めたノートが見つかった。「(息子に) 悪いことをした。もう一度会いたかった」。だが、息子は「家族とは縁を切った」と告げ、室内に残されていた百十数万円の現金だけを受け取った。

西村さんは「どんなに疎遠でも、故人は家族のことを思って生活していたはず。思いがこもった遺品を届けるのも仕事だが、親族から拒まれることも少なくない」と話した。【近藤大介】

夢の架けはしプロジェクト 障害児のスポーツ支援、深谷市が寄付金募る 22日まで ／埼玉 毎日新聞 2018年5月14日

村岡桃佳選手に続けー。障害児のスポーツ用具代などを支援するため、深谷市は寄付金を募って県産ヒノキの箸などをプレゼントする「夢の架けはしプロジェクト」を22日までの期間限定で始めた。平昌パラリンピックで同市出身の村岡選手が金銀銅五つのメダルを獲得したことを機に、市は「夢に向かって頑張っている障害児を応援する機運を高めたい」と意気込む。

市は2012年度に創設した「ふっかちゃん子ども福祉基金」を通じて、村岡選手ら障害者スポーツに取り組む子供に必要な用具代や、難聴児のための補聴器購入費などを補助してきた。今回は村岡選手の活躍をアピールし、基金への認知度を高めるのが狙いだ。

5000円以上を寄付すると、障害福祉サービス事業所「川本園」（同市本田）で製作された手作り箸と箸置きを記念品として贈る。村岡選手のイラストやサイン入り。金額に応じて木製のティッシュケースや置き時計などももらえる。同事業所の田中初男施設長は「村岡選手の存在が、障害者と障害者を応援したい人とのかけ橋になってくれたらうれしい」と話す。

電話やファクス、ホームページ「ふるさとチョイスGCF」から申し込みできる。問い合わせは深谷市企画課（048・574・8096）。【大平明日香】

目の不自由な人に絵画解説 京都文化博物館で「オットー・ネーベル展」鑑賞ツアー

産経新聞 2018年5月14日

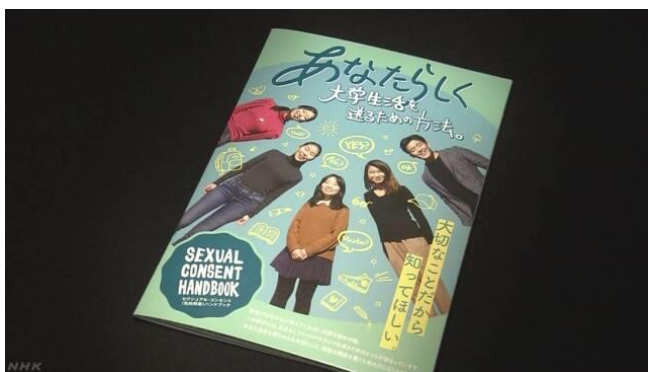
スイスやドイツで活動した画家、オットー・ネーベル（1892～1973年）の回顧展「色彩の画家 オットー・ネーベル展 シャガール、カンディンスキー、クレーとともに」（産経新聞社など主催）が開催中の京都文化博物館（京都市中京区）で13日、目の不自由な人も楽しめる絵画の鑑賞ツアーが開かれた。参加者らは健常者と絵の構図や色彩などについて会話を交わしながら特徴をつかみ、絵画鑑賞を楽しんでいた。

視覚障害者の芸術鑑賞をサポートする市民団体「ミュージアム・アクセス・ビュー」が企画。この日は、全盲や弱視の男女8人を含む約30人が参加した。

イタリア・ナポリのイメージを色彩で表したネーベルの作品「ナポリ」では、健常者の参加者が「水彩のような鮮やかな黄色やオレンジの四角が積み木のように重なり、その上に青い円がある」と説明。

弱視の参加者から「どんな色合いの青ですか」「円は何を表しているのですか」との質問に、「秋空のような澄み切った青で、地中海を表しているようです」と答えるなど、互いに協力し合いながら作品への理解を深めていた。美術鑑賞が趣味という弱視の丸山美代子さん（62）＝津市西丸之内＝は「人によってどのように作品を感じるかが異なり、その違いを話しながら鑑賞するのが楽しい。ぜひいろいろな人にも参加して、広まってほしい」と話した。

性の「同意」大切さ知って！ 学生グループが冊子作成



NHKニュース 2018年5月14日
性暴力やセクハラが社会問題となる中、大学生のグループが、性における「同意」の大切さを訴えるハンドブックを作り、この春大学に入学した学生などへの配布を始めました。
このハンドブックは、同世代の人たちに性における「同意」の大切さを知ってもらおうと、ジェンダーや性暴力の問題などに取り組んでいる大学生のグループが、産婦人科医の監修の下、

作成しました。

A5サイズで18ページあり、同意の無い性的な言動は性暴力だと位置づけたうえで、「NO」と言える環境や、社会的地位や力関係に左右されない対等な関係などが大切だと指摘しています。

また、暴力が起きかねない状況を見かけた時に、第三者としてできることや、性被害に遭ってしまった場合の相談先なども詳しく紹介しています。

ハンドブックは、首都圏を中心とした12の大学で、先月から順次配布が行われ、このうち神奈川県藤沢市の慶應義塾大学のキャンパスでは、1年生が多く参加する授業の教室を作成に携わった4年生が訪れ、「正しい知識を知って」などと呼びかけながら冊子を手渡していました。

配布にあたった戸谷知尋さんは、「自分のことは自分で守り、相手のことは傷つけないというようになってほしいと思います」と話していました。

グループでは、ほかの大学での配布について、ホームページを通じて相談を受け付けています。

ハンドブック制作「ちゃぶ台返し女子アクション」

<http://chabujo.com/wp/campaign/sexual-consent-handbook/>

ピクルスで一人親家庭支援 8個売れて1個寄付 大阪日日新聞 2018年5月13日

ピクルスの製造販売「いずみピクルス（NSW）」（泉佐野市、西出喜代彦社長）は、一人親家庭の支援を目的とした新商品「4Y（フォー・ユー）ピクルス」を16日から、大阪の直営2店舗で販売する。規格外野菜や製造過程で発生した端切れを使い、同様商品の5%引きで販売。商品が8個売れるごとに1個を一人親家庭に寄付する仕組み。家庭の野

菜不足を補いたいとしている。

一人親家庭に届けられる7種の野菜が入った「4Yピクルス」のパックを持つ西出社長（左）と玉城代表

ピクルスは野菜や果物を酢漬けにした保存食。開封前だと瓶で1年間、袋パックでも3カ月間は保つ。開封後も2週間は大丈夫で、栄養価も高い。

■野菜を有効活用

水ナスをはじめ、大阪・泉州産野菜にこだわってきた西出社長。一方で、過剰生産や規格外で市場からはじかれた野菜の有効活用を模索していた。そこで、知人でさまざまなチャリティー企画を手掛ける吉村大作さん（38）に相談し、一人親家庭に食料支援をしているNPO法人「ハッピーママ」（門真市、玉城ゆかり代表）とつながった。

同法人では現在、門真市内の5世帯へ月に1～2回、フードバンクを活用して加工食材を届けている。ただ、生鮮食品はフードバンクから提供されないため、生野菜は限られた活動資金の中から購入していた。

「利用者アンケートでも野菜を食べていない、冷凍野菜ばかりという回答が多かった」と玉城代表。余った野菜と支援を待つ人がつながった。

規格外野菜は不定期出荷のため、入荷に合わせてピクルスを製造。一人親家庭に送るパックには、定番のタマネギ、キャベツのほか、水ナス、ニンジン、パプリカなど7種の野菜を入れる。

販売数を見込んで、製造した時点でハッピーママに毎月10パック、さらに同様の支援活動を展開する東京の「一般社団法人 ハートフルファミリー」に20パックを送る。今年の出荷目標は360パックに設定した。

■プラス1品

酸味の強いピクルスは子どもには不向きに思うが、パックは酸っぱさを軽減。また、「ピクルスはレシピ次第で楽しんで食べられる食材」と西出社長。同社ホームページでは、ピクルスを使ったパスタやスープなどのレシピを公開し、玉城代表も「レシピを紹介しながら届けたい」と話す。

「4Y」の由来は、「Y a s a i（野菜）」「Y o u」「Y e l l」「Y o u t h」の略で、「野菜で消費者が子どもたちにエールを送る」という思いを込めた。

「毎日少しずつでも野菜が取れる。食卓のおかずが1品増えるだけでもありがたいこと」と玉城代表。西出社長は「子どもに楽しんで食べてもらい、健康になってもらいたい」と願いを込めた。

「4Yピクルス」は大阪市のルクアイーレ店、なんばパークス店で販売。東京でも日本橋三越本店で1カ月の期間限定で販売される。



「眠れる資産」でNPO支援 休眠預金、各銀行が活用のためにシステム整備



Sankeibiz 2018年5月14日

銀行は、休眠預金を公益活動に活用するためのシステム整備に乗り出した

お金の出し入れが10年以上ない「休眠預金」を民間の公益活動に活用するため、各銀行がシステム整備に乗り出した。投資額は大手銀行5グループだけで50億円程度とみられる。「前例のない社会実験」ともいわれる休眠預金の活用は、低金利の継続やITを駆使した金融サービス「フィンテック」の進展を背景に新規採用の抑制、店舗網の見直しといっ

た構造改革を迫られる銀行にとって、重い負担となりそうだ。

来秋には助成・融資

休眠預金の活用は、銀行がまず、預金保険機構にお金を移すところから始まる。各行が着手したシステム開発は、この対応に必要な措置という。

お金はその後、首相が指定する指定活用団体で厳正に管理される。地域の公益活動事情に詳しい資金分配団体を経て、来秋には、若年層の支援や地域活性化に取り組む民間非営利団体（NPO）への助成・融資・出資が始まる。

政府が2月にまとめた基本方針案では、支援先として、児童養護施設に入所する子供の進学支援や障害者の雇用促進、過疎地の雪下ろし事業などに取り組む団体を想定。しかし「資金の使い道をあらかじめ政府が限定すべきではない」として、当初検討課題に上がった「子どもの貧困対策」など、基本方針に具体的な事業名を明記することは見送った。

休眠預金活用法は2016年12月に成立、今年1月に施行されたことで、政府や銀行が具体的な対応に動き始めた。政府は来夏をめどに、休眠預金活用の基本計画をまとめる方針だ。

海外では、英国や韓国などが同様の休眠預金の活用制度を設けている。

金融庁の推計によると、休眠預金は毎年約1200億円発生し、このうち500億円程度が預金者に払い戻されている。民間の公益活動を支援する財源として財政難の国が目をつけたのが、残る約700億円の“眠れる資産”だ。実際には、ここからさらに支払い請求に備える分を除いた500億円程度が対象となる見通しという。

休眠預金には例えば、預金者が転居手続きをしないまま引っ越してしまい連絡が取れなくなるケースや、相続人に預金の存在を知らせないまま預金者が死亡するケースがある。銀行は10年以上取引が途絶えた預金口座のうち、残高が1万円未満の口座を自動的に休眠扱いとしている。残高が1万円以上ある場合は預金者に通知し、戻ってきた場合などに休眠扱いとしている。

前例ない社会実験

商法では、最後の取引から5年が経過すると預金者は財産権を失うと定めている。銀行は休眠預金を利益として計上しているものの、時効後でも預金者から請求があれば、多くの銀行が元本に利息を上乗せして払い戻しているのが実態だ

休眠預金口座の約9割は残高1万円未満、平均残高はわずか約6500円という政府の調査もある。あるメガバンク関係者は「こうした小口の預金口座の維持・管理にも、銀行は多くの手間とコストをかけてきた」と打ち明ける。

政府の基本方針案には、休眠預金の活用について「わが国では前例のない『社会実験』である」との文言が盛り込まれた。銀行は制度運用開始後も請求があれば預金者に払い戻しをするが、もとは一般国民の財産である休眠預金の活用には、これまでも「財産権の侵害」などと批判する声もあった。

休眠預金を有効活用できれば、恵まれない子供たちや障害者への支援が広がる可能性はあるが、対象の選定や使い道には、厳しいルールが求められる。(米沢文)

【用語解説】休眠預金

預金者と連絡が取れなくなったり、口座の存在を忘れて10年以上お金の出し入れがない状態の預金。銀行や信用金庫などの金融機関で発生する休眠預金は毎年約1000億円とされる。農協や漁協などでも休眠状態の貯金が発生しており、休眠預金活用法の対象となる。

「障害者人権尊重を」知事が再考促す 名古屋城E V問題 朝日新聞 2018年5月14日

名古屋市が名古屋城木造新天守にエレベーターを設置しない方針を決めたことについて、愛知県の犬村秀章知事は14日の記者会見で「障害者の基本的人権は尊重されなければならない。市は障害者の皆さんと意見交換して、より良い解決策を見いだしてほしいと強く

申し上げたい」と述べ、市に再考を促した。

市の方針については、障害者団体の全国組織が抗議文を送ったり、県内の障害者団体が県に対し救済措置を申し立てたりしている。

大村氏は、エレベーター不設置について「障害者の基本的人権にかかわる極めて重大な問題と認識せざるを得ない。(障害者団体からの)申し出は重く、厳粛に受け止めないといけない」と指摘。県への救済申し立ての扱いについては「我々ができることを十二分に検討したい」と述べた。

模擬国連、海城高が部門最優秀賞 日本から2度目 共同通信 2018年5月14日

【ニューヨーク＝共同】世界の高校生が国連の会議を模して国際問題を討議する「グローバル・クラスルーム国際模擬国連大会」がニューヨークで11～12日に開かれた。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は13日、海城高(東京)が国連工業開発機関(UNIDO)の部門で最優秀賞を受賞したと明らかにした。

グローバル・クラスルーム日本委員会とACCUが派遣した日本の高校の最優秀賞は2014年以来で2度目。渋谷教育学園渋谷高(東京)と頌栄女子学院高(同)は優秀賞を受賞した。

ACCUによると、世界各地から約1500人の高校生が参加した。自分の国と関係なく割り振られた国の大使になりきり、決議案をまとめる交渉力を競った。日本の高校生の多くは南米ウルグアイを担当した。

途上国でのバイオ燃料の持続的な生産を議論した海城高2年の山田健人さん(16)は「グループの議論を円滑に進めたことが評価されたと思う。幸運だった」と話した。

特許権に関する討議に参加した頌栄女子学院高3年の元田有香さん(17)は「生まれ育った国が違っても、同じ高校生同士、対等に交渉し合えた」と充実した様子。社会的弱者への社会保障を話し合った渋谷教育学園渋谷高2年の長谷川えみりさん(16)は「地域の現状を直視した決議案を取りまとめることができた」と語った。

ACCUによると、これまで日本からは関東や関西の都市部の高校だけだったが、今年には鳥取県立鳥取西高も参加した。

子育て支援早期対応 育ちあいの開所1カ月 長野日報 2018年5月14日



子育てや家庭に関する相談を呼び掛ける「育ちあいの」のスタッフたち

茅野市子ども・家庭総合支援拠点「育ちあいの」が、4月の開所から1カ月を迎えた。子育てや家庭に関する相談・支援体制を一本化したことで、早期対応につながっているほか、認知度も徐々に高まっていて、順調な滑り出しとなっている。市は気軽な利用を求めている、「一人で悩む前に相談してもらえたら」と呼び掛けている。

同拠点は、市役所6階の市教育委員会子ども部子ども課内にある。既存の家庭児童相談室に同市本町東にあ

った発達支援センターを集約。学校教育課のスクールソーシャルワーカーを配置転換し、県配属の統括コーディネーターや教員・保育士資格を持つ経験豊富な相談員を新たに配置した。組織は課長を含め16人。

同拠点によると、子育てや子どもの発達、不登校などの相談と支援に当たる業務は基本的に従来通りだが、機能の集約化で組織間の連携や情報共有が迅速化し、より適切に対応できるようになった。統括コーディネーターを中心に、小中学校との連携も進んでいるとい

う。

支援拠点の設置は児童や保護者の継続的な支援、児童虐待の発生予防に向けて、昨年4月施行の改正児童福祉法で努力義務とされた。市はこれまで、縦割りだった児童福祉と学校教育を統合して「こども部」を2012年度に創設し、14年度には発達支援センターも開設してきた。一方、子育てや家庭に関する問題の複雑化が進み、妊娠期から就学期までの切れ目のない相談支援体制や専門性の確保が課題になっていた。

山田利幸教育長は「保護者の方々や子どもたちが安心して心身ともに健やかに暮らせるようにサポートしていきたい。(拠点を設置したことで)速やかに対応できている」と手応えを感じている。市は6～7月をめどに相談室の改修などプライバシーを確保する環境整備も進める方針だ。

同拠点は子育てや子どもの発達、学校や家庭に関する相談を受け付けている。相談無料。開設時間は平日の午前8時30分～午後5時15分。問い合わせは、市教委こども課(電話0266・72・2101、内線615)へ。



パティシエの技を障害者に伝える 読売新聞 2018年5月14日
撮影・浜井孝幸

八木淳司さん 66

「洋菓子界で活躍するチャレンジド(障害のある人)を生み出そう!」と、2008年に始まった支援活動「神戸スイーツ・コンソーシアム」。全国16人のパティシエとともに、年数回、各地の作業所の人にプロの技を伝授してきた。

3月末、東京での修了式では、10年前に一言も話さなかった人が、「生きがいを見つけた」と笑顔を見せた。「続けてみるもんだ」と目頭が熱くなった。

東京・八王子の織物工場の次男。手に職を、と好きな洋菓子の道を選んだ。国内の菓子に飽きたらず、24歳でウィーンへ。4年後、外国人初のオーストリア政府公認「製菓マイスター」の称号を得た。帰国後結婚。知的障害の子を授かった縁で、日清製粉が持ちかけた統括

講師を引き受けた。

障害のある人の個性は千種万様。伝え方にも工夫がいる。けれど、「伸ばせる部分は絶対ある」。本人も気づかない力を引き出すと見違える。そこが面白い。

昨年から、障害者が働くカフェで菓子作りを教えることが本業になった。「品質で消費者に選ばれるものを」と意気込む。米国で障害者を指す「チャレンジド」は、挑戦すべき課題を与えられた人という意味だ。マイスターの挑戦もまた、続く。

障害者の自立を目指すカフェ「ボヌール・ヴェール」(神戸市)に勤務。

(医療部 館林牧子)

全社協が困窮者居住支援で検討会 札幌火災など背景に

福祉新聞 2018年05月14日 編集部

全国社会福祉協議会は4月26日、セーフティーネット対策等に関する検討会の初会合を開いた。困窮者の住まいや生活支援が社会課題となる中、救護施設や養護老人ホームなどの実践を踏まえた提言を取りまとめる。具体的には、社会福祉法人が空き家を使って困窮者を支援する仕組みなどが浮上している。

同検討会は、全社協・政策委員会のテーマ別検討会として設置され、座長には宮本太郎・中央大教授が就任。委員には、救護施設や更生施設、生活困窮者支援を行うNPO法人の代表が名を連ねる。

検討会を立ち上げた背景には、近年各地で相次いだ無届け施設などでの火災がある。

今年1月、札幌市のアパート「そしあるハイム」で起きた火災では11人が死亡。入所者16人のうち13人が生活保護受給者だった。入所要件を高齢者に限定していないためアパートと同じ扱いになり、スプリンクラーの設置義務はなかった。

15年には川崎市の「吉田屋」、09年には群馬県渋川市の「静養ホームたまゆら」でも火災が発生。多くの生活保護受給者が亡くなっている。

本来、低所得高齢者の受け皿として、社会福祉法人が運営する養護老人ホームや救護施設などがある。しかし現状では、全国の救護施設の入所者が1万6700人であるのに対し、スプリンクラーの設置義務のない無料低額宿泊所と無届け施設を合わせた入所者は3万人以上と大きな差がある。

また、全国に976カ所ある養護老人ホームの平均入所率は87%。自治体が予算を抑えるために入所を抑制する「措置控え」が起きているとされる。中には40%以下の自治体もあり、閉園を余儀なくされた施設もあるという。

こうした中、検討会は低所得高齢者の居住支援などについて議論する。

具体的には、救護施設や更生施設、養護老人ホームなどによる支援機能の強化策等の機能強化策について検討する。社会福祉法人が地域の空き屋を活用し、無料低額宿泊所のような施設を整備する仕組みなどが浮上している。

このほか、検討課題として、無料低額宿泊所に求められる機能、社協やNPO法人、民生委員による活動についても取り上げるといふ。

さらに検討会では、今国会の改正生活保護法案で創設が予定されている「日常生活支援住居施設」の在り方についても検討を実施。提言に盛り込みたい考えだ。

会合は今後月1回のペースで開き、年内に提言をまとめる予定だ。



雑記帳 高校生の時に多発性硬化症と診断され… 毎日新聞 2018年5月14日

高校生の時に多発性硬化症と診断され、24時間介助と人工呼吸器が欠かせない大橋グレース愛喜恵（あきえ）さん（29）＝大阪市住之江区＝が13日、名古屋市昭和区で講演し、米国留学への支援を訴えた。

「障害者が障害に誇りを持っている」米国で学ぶには、人工呼吸器を新たに購入する必要がある。400万円のクラウドファンディングを始めたが、6月14日までに目標額に達しないと寄付金を受け取れない。

全国で講演行脚を続け「若手障害者のリーダーになりたい」と夢を語る。すでに8割ほど集まり、残りは80万円超。車いすの大橋さんが、計画通り8月に渡米するまで「あと一押し」だ。【野村阿悠子】

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

